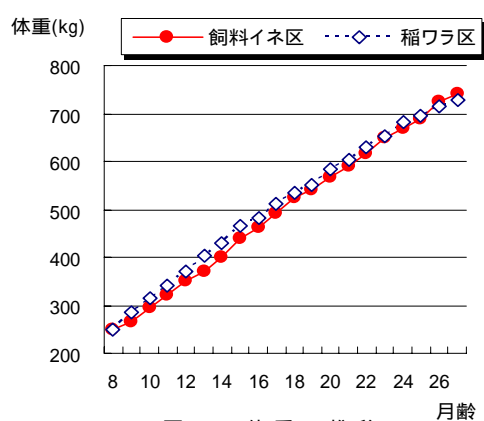


肥育牛への飼料イネ給与技術

生後8カ月の黒毛和種去勢牛を用い、13カ月齢まで飼料イネホールクロップサイレージを給与する肥育試験を行いましたので結果を紹介いたします。本試験では、14カ月齢以降は稲ワラを給与し、27カ月齢までと畜しましたが、飼料摂取量や体重などの発育値は、粗飼料に稲ワラのみを給与した場合と差がなく良好でした(図1)。

<主な結果>

- 1 統計的な差は認められないものの、飼料イネ区のほうがロース芯面積が大きく、バラや皮下脂肪の厚さが厚く、BMS No.も高い傾向にありました(表1)。
- 2 血漿中ビタミンA濃度は稲ワラ区に比べると飼料イネ区のほうが低下速度は遅いですが、脂肪細胞の分化が始まる14カ月齢までには低水準(多給区 62.6IU/dl、少給区 38.4 IU/dl)に達しており、調製時に予備乾草したサイレージを利用することにより、ビタミンAコントロールが可能と推測されました。(図2)



27カ月齢体重 飼料イネ区 741kg
稲ワラ区 728kg

表1 枝肉格付

項目	飼料イネ区	稲ワラ区	項目	飼料イネ区	稲ワラ区
肉質等級	4.00	3.67	歩留基準値	74.8	74.2
枝肉重量(kg)	460.5	463.0	BMS No.	6.00	5.33
ロース芯面積(cm ²)	58.8	57.0	格付(頭数)	A5(1) A4(2) A3(1)	A4(1) A3(2)
バラの厚さ(cm)	7.90	7.03			
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.05	1.67			

試験では、予乾調製した飼料イネホールクロップサイレージを15%(乾物)給与しました。原物量では2.8kg程度です。飼料イネは肥育牛にも利用可能ですが、採食性がよいので、給与量とβ-カロテン含量に注意して使うことが必要です。(肉牛研究室 櫻井由美)

ビタミンA投与(各時期50万IU/頭)
WCS区: 17、18カ月
稲ワラ区: 14、16、17、19カ月

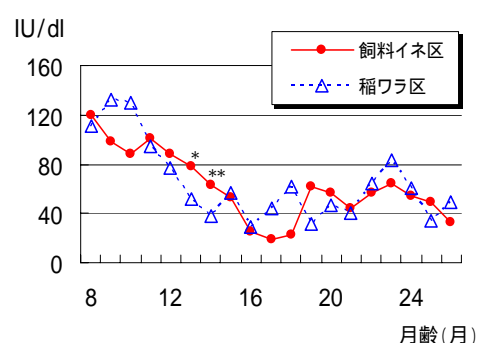


図2 血液中ビタミンAの推移

* 2試験区間に有意差あり (P<0.05)

** 2試験区間に有意差あり (P<0.01)